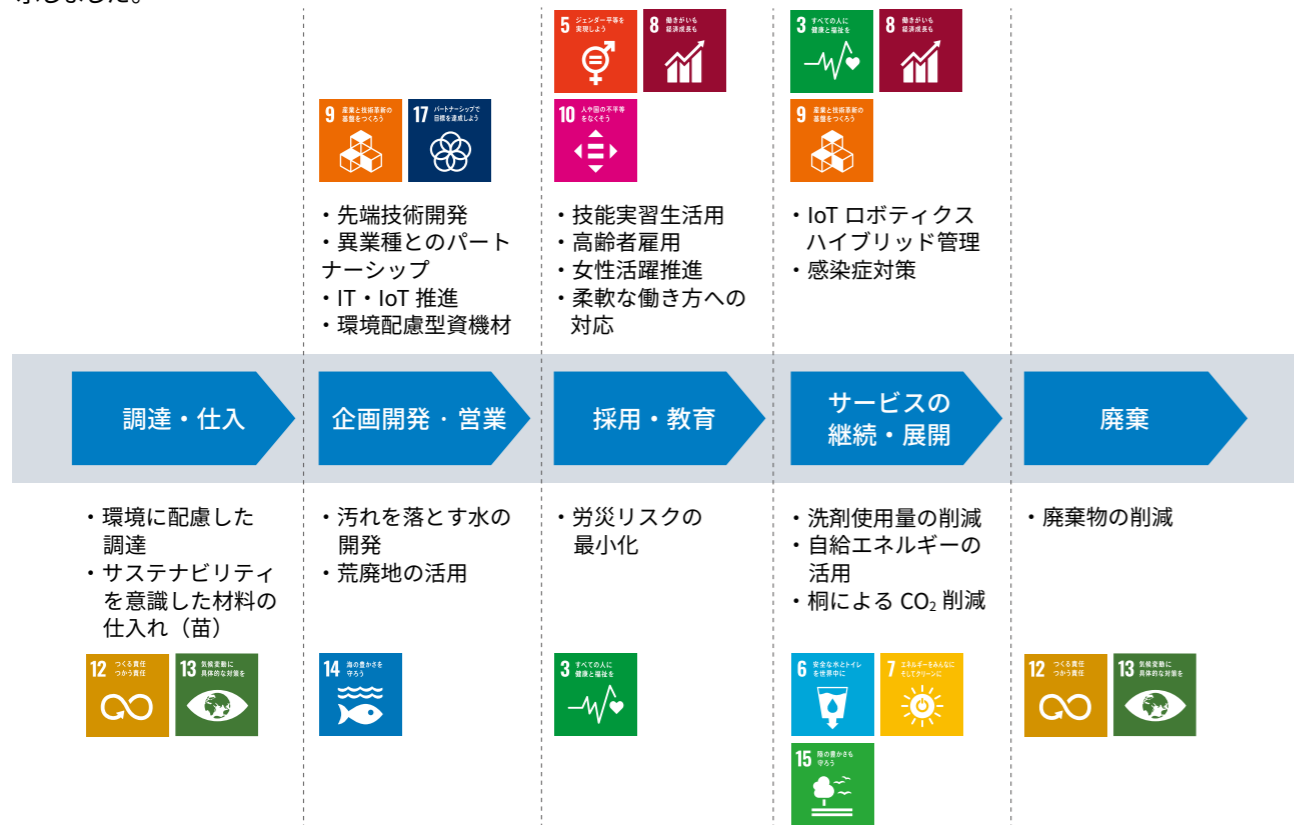


事業のすべてのステージでSDGsへの取り組みを推進していきます。

大成では、事業活動のすべてのステージで、SDGsを視野に入れた活動に取り組んでいます。SDGsポリシーの下に、新たに力を入れていく取り組みに加え、従来から私たちが推進してきた活動をバリューチェーンのそれぞれのステージに示しました。



調達・仕入

気候変動やつかう責任に配慮

環境にやさしい洗剤や資材の調達を行い、サービスを提供しています。また、植林活動を行うため、苗の仕入れも行っています。

企画開発・営業

パートナーシップで技術革新

次世代の持続可能なビルサービス事業をめざし、多分野のベンチャー企業とのパートナーシップにより、技術開発や業務改革手法の確立を目指しています。

採用・教育

ジェンダー平等や働き方改革を推進

国籍、年齢、性別に関係なくすべての人が活躍できるように柔軟な働き方を導入しています。安全な職場づくり、労災リスクの最小化も目指しています。

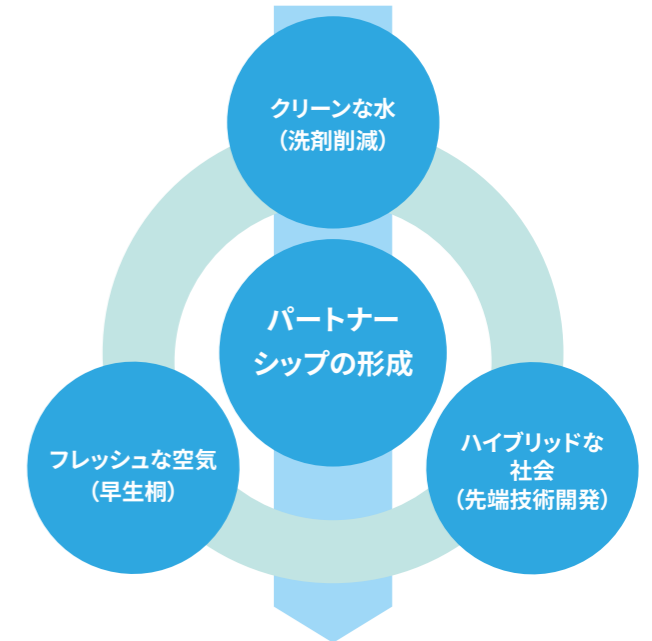
サービスの継続・展開

気候変動や水資源問題に対策

洗剤の使用を極力少なくする活動や自給エネルギーの活用を行います。またIoT・ロボティクスによるハイブリッド管理に挑戦し、本業で社会課題に取り組んでいます。

総合ビルサービスの大成 私たちの SDGs宣言 実現へのストーリー

SDGsポリシー
ファシリティマネジメント事業を通じて、
環境と働き方改革に配慮した社会の実現の一端を担います。



SDGsポリシーの下、大成が描く社会と企業の未来をここに宣言します。

私たちのSDGs宣言

大成株式会社は、1959年の創業以来、総合ビルメンテナンス事業を通して雇用機会の創出や建物機能の向上を図り、社会に貢献してきました。第7次中期経営計画（2020～2022年度）では「Ready for Change - 変革への備え -」をスローガンに「持続可能な開発目標（SDGs）」を中核とした新たなSDGsポリシー「ファシリティマネジメント事業を通じて、環境と働き方改革に配慮した社会の実現の一端を担います」を掲げました。このポリシーの下、ステークホルダーとのパートナーシップを形成し、クリーンな水、ハイブリッドな社会、フレッシュな空気をテーマとするサステイナブルな街づくりをめざした活動を推進していきます。

私たちが取り組むこと

クリーンな水

- 洗剤使用量 2026年に2021年比50%削減

ハイブリッド（ヒト×IoT）な社会

- 警備アバターロボット「ugo」・次世代受付システム「T-Concierge」 2026年までに500台
- 「T-Spider」・センサー導入件数2024年までに管理物件の30%へ展開

フレッシュな空気・早生桐によるCO₂削減

- 「furniTure」を中心としたオフィス環境づくりを2026年までに10件
- 早生桐苗を2026年までに4ha、2400本植林

サステイナブルな街づくり

- ニューノーマルライフを実現する山林開発（エコトピア）
- エコトピアで2050年までに食物、エネルギーの自給自足率100%

なぜ取り組むのか、なにをめざすのか

クリーンな水 “ 変わらぬ日常から地球をキレイに ”

大成の主要業務であるクリーン業務はたくさんの洗剤を使用します。私たちが洗剤の使用量を減らした清掃を実現することで、排水による環境負荷を低減でき、これらは毎日行うことなので大きな効果が得られます。ベンチャー企業と連携し、汚れを落とせる水の開発に挑戦していきます。より少ない洗剤で汚れを落とす環境に配慮した清掃手法を実践していきます。



ハイブリッド（ヒト×IoT）な社会 “ 人と寄り添う先端技術 ”

少子高齢化に伴う働き手不足が加速しています。ビルサービスは社会インフラの維持に不可欠です。現在の労働集約型の業務スタイルから脱却し、人と先端技術のハイブリッド管理で品質向上、コスト低減を実現していかなければなりません。私たちは築いたビルサービスの知識、経験を活用し、IoTやロボティクスなど先端技術の開発企業とパートナーシップを組み、警備アバターロボット「ugo」ならびに情報プラットフォーム「T-Spider」を提供します。



フレッシュなオフィス空間 “ グリーンからクリーンへ ”

ビルやオフィスでは樹脂や金属などによるインテリア、空間づくりが一般的ですが、私たちは木材と紙を主材料にしたオフィス家具シリーズ「furniTure」を開発。材料となる早生桐はCO₂の吸収量が他木の10倍もあり、通常の桐は20年程度で成木になりますが、早生桐は4～5年で丈夫な成木になります。大成では桐の植林、育成から手掛け、オフィス空間の改革をめざします。



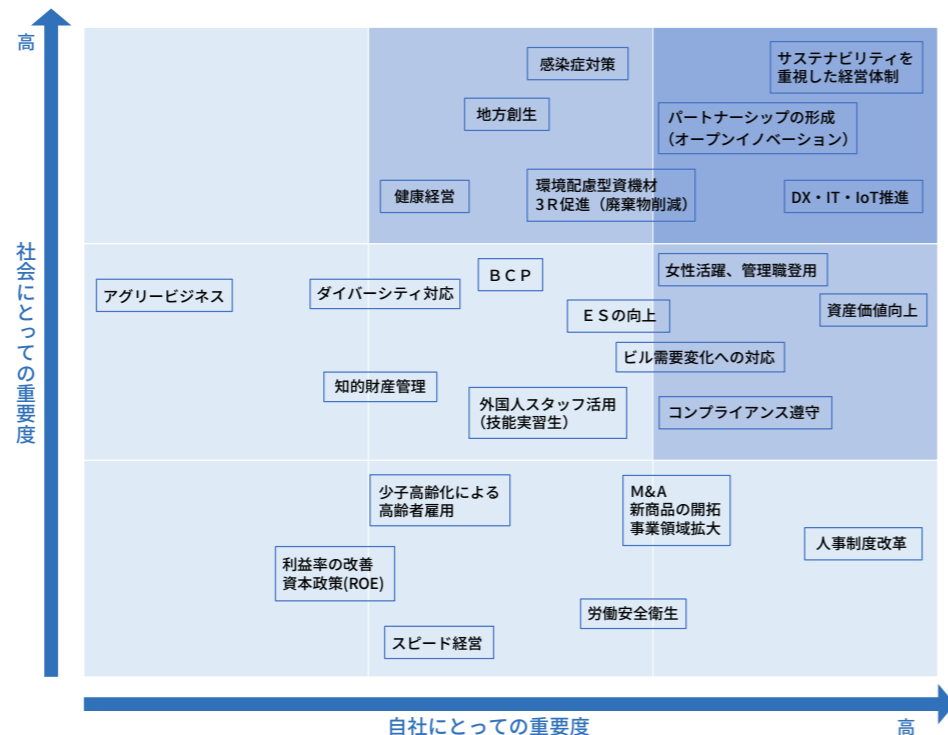
サステイナブルな街づくりへ “ 大成の集大成 エコトピア ”

これまでの3つの取り組みの最終形として、大成ではエコトピアの創生をめざしています。さまざまなパートナーと協業し、山林を開発、農地やログハウス、太陽光発電設備などのインフラを整備し、さらに、リモートワークが行える情報通信環境も整えた、非日常空間型エコタウンをアウトプットとして生み出し、SDGsのその先をめざした新しい暮らし方の提案をしていきます。



私たちの重要課題を洗い出し、マテリアリティを特定しました。

大成では、SDGs宣言の策定にあたり、マテリアリティの特定を行いました。SDGsやパリ協定、および自社が取り組んでいる社会課題を抽出し、自社における重要度とステークホルダーへの影響度の2軸でマッピングを行い、分析しました。マトリックスの右上が私たちのマテリアリティとなり、外部有識者との対話と検証によって、最終的に決定しました。



総合ビルサービスの大成が価値創造モデルを描きました。

